

三者の学びとしての評価

①学生

活動報告集から学生の質的成長のプロセスをみると、地域社会にでる不安を抱えつつスタートし、それを上級生の支援や仲間との学習、自分たちの企画準備のなかで責任感が芽生え、積極的に動く必要性を感じるようになった。そして、夏休み中の活動先での様々な人との出会いや「成功と失敗」体験を通してNPOの設立者や働く人たちの思いや願いを、我がものとして少しは実感できるようになった。活動後のふりかえりを通して、地域とNPOの課題を共有できるようになった。

②NPO

24か所のNPO等の活動先団体K各理事長が、事前打ち合わせ、ふりかえり会、報告会と年間3度にわたって大学を訪問してくださった力強い協力が2年間の取組みを成功させた最大の要因である。それには、全体をバックアップしていただいた地域福祉サポートちたとの協働が大きい。

単に学生を受け入れるのではなく、これからの市民社会の担い手を知多半島のなかで一緒に育てる者として、学びあう機会としてサービスマーケティングを捉えて頂いた。

③大学

学生の自己形成力を高めることを目的に開始したサービスマーケティングを通して、学生を地域と大学で育てるシステム形成にむけて、貴重な礎石を据えることができた。

NPO等と大学の協働関係を築くことは、地域貢献に対する大学の役割も一層問われることになる。次年度からの新たなサービスマーケティングの体制ではこの点も視野に入れて取り組んでいきたい